R7 楡木小学校　学校通信
No.１３
なりたい自分になる！
In 楡木サラダボウル
令和７年６月２７日
文責　余宮

あっという間に６月が過ぎ去ろうとしています。梅雨晴れはもしかしたら…

メリハリの先にあるモノは…

朝の素敵あいさつが飛び交います。ちょうど、私の部屋の前を通っていくのは３年生です。今日も、とびきり素敵なあいさつが聞こえてきます。本当に気持ちのよい朝です。

そうこうしているうちに、２時間目。プールをのぞいてみると、またまた３年生の姿が。合言葉「かぶとむし」（かけない・ぶざけない・飛び込まない・無理しない・しっかり聞く）をみんなで守りながらの学習が行われています。ついふざけてしまう、なんてことはありません。なぜなら、みんなで声を掛け合っているからです。本当の「メリハリ」がある活動に、私は気持ちのよさを感じます。

本当に、がんばることに素直な３年生です。

そんな３年生の学年目標は「チェンジ」です。掲示板には５つの「チェンジ」が掲げられています。「今までの自分からチェンジ！」「自分のまわりをチェンジ！」「たすけ合いでチェンジ！」「考えた行動でチェンジ！」そして「メリハリでチェンジ！」

協働で成長していこうとする、素敵な３年生の息遣いが感じられる学年目標ですね。

そこで今号は、３年生が掲げている「メリハリ」について考えてみようと思います。

この「メリハリ」を付けることで、時間の節約になることは論を待たないでしょう。時間って誰にも平等に流れ、そして戻すことができない。とても大切なものだよなあ。

そんな思索していたとき、「モモ※」という物語を思い出しました。

とある町はずれ。さびれた劇場後に残った廃墟に、謎の少女が突然姿を現します。それが「モモ」。モモは、近くに住む人にとても慕われていました。なぜなら、モモのそばにいると、素晴らしいアイディアが生まれたり、楽しい話が浮かんできたりするからです。でも、モモがやっていることは、その人の話を聴くことだけ。モモのまわりは、いつも平和です。

しかし、「時間泥棒」の出現により、平和な生活は奪われてしまいます。「時間貯蓄銀行」からやってきた時間泥棒＝灰色の男たちが、みんなに時間を節約することを勧めます。そこから、みんなは時間を節約するために、あくせくあくせく。モモの親友も時間泥棒のせいでなんだか忙しくなり、すれ違いばかり。とうとうモモとカメのカシオペイヤと、そして時間管理者のマイスター・ホラは、時間泥棒と対決することに・・・

と、こんなお話です。この物語からはたくさんのことを学べると思うのですが、やはり時間の大切さや尊さを感じずにはいられません。ただ、間違ってはいけないのは、時間を大切にすることを目的化しない、ということだと思います。そう、時間泥棒のように、効率化だけを求めることで、本当に大切な何かを見失っては本末転倒。SNS などネットの世界は、射幸性に満ちています。しかし、本当に必要な時間なのでしょうか。こんな時代だからこそ、自分の時間の使い方に立ち止まり、よく考えて、豊かな時間を取り戻したいものです。

だから、３年生の目標には「メリハリでチェンジ」。

メリハリを手段にして、本当の目的である豊かな人生を求めて、私自身の変化（チェンジ）にじっくりと立ち止まるときを大切にしていこう、と。やっぱり素敵な３年生です。

※「モモ」ミヒャエル・エンデ作、大島かおり訳. 岩波書店. 2005.
1973 年に創刊された本書は、何度も新装され、そして何ヶ国語にも訳された、子どもたちだけではなく大人まで読み続けられている名著ですね。ちなみに、ミヒャエル・エンデは「ネバーエンディングストーリー」も書いたことで有名な、児童文学作家です。